

第5回 「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議 議事摘録

日時：令和元年10月2日（水）午前9時30分～11時30分

会場：京都市動物園 レクチャールーム

出席者：

【委員】

池田 泰子 市民公募委員
今村 礼子 市民公募委員
澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長
中道 正之 大阪大学大学院人間科学研究科教授
松本 朱実 動物教材研究所 poket 主宰 近畿大学非常勤講師・研究員
福井 亘 京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
藤井 容子 京都岡崎魅力づくり推進協議会 魅力情報発信担当マネージャー
本多 和夫 平安神宮 宮司
湯本 貴和 京都大学霊長類研究所教授・所長

（欠席）

森村 成樹 京都大学野生動物研究センター特定准教授

【事務局】

（文化市民局）

文化芸術政策監	北村 信幸
文化芸術都市推進室長	尾崎 学
文化芸術企画課長	藤田 智洋

（動物園）

園長	片山 博昭
副園長	坂本 英房
総務課長	岩田 貴子
種の保存展示課長	和田 晴太郎
生き物・学び・研究センター長	田中 正之
総務課庶務係長	牛丸 昭
総務課	岩浅 拓也

【コンサルタント】

株式会社地域計画建築研究所	嶋崎 雅嘉, 原田 稔, 塗師木 伸介
---------------	---------------------

【オブザーバー】

（環境管理課）

環境管理課長	日野 唯行
--------	-------

（公共建築企画課）

公共建築企画課	
設備企画担当課長	田中 良幸
公共建築企画課課長補佐	樋口 博紀
建築企画第一係長	鈴木 美和子
電気企画係長	田中 靖啓
公共建築企画課	長島 薫

1 開会 資料確認

岩田課長

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・議事進行については湯本座長にお願いする。

(1)新たな「京都市動物園構想」(中間報告)の周知・「動物園の魅力発信強化事業」の報告について
資料1説明

湯本座長

- ・いろいろな活動をしていると感じた。しかし、それに対する労力対効果についてはどのように考えているか。

片山園長

- ・動物園の外へ出て活動を本格的に行ったのは今年度が初めてである。これまで対外的な発信をできていなかったという反省に基づいており、また、リニューアルの効果を多くの京都市民に伝えたいという考えである。
- ・来年度も体制に無理がないように続けていきたい。

湯本座長

- ・本園が力を入れて取り組んでいる内容については評価されていることが分かった。一方、我々も懸念しているアカゲザルの施設について改善すべきという思いを市民の方々が同じく持っていることが分かった。

松本委員

- ・現在の構想には環境教育について「実際の生きているものを見て学ぶ」ということが抜けていることに気付かされた。
- ・自由記述の6番, 11番, 16番, 普段とは違う見方や深く知りたいと感じているのではないかと感じた。しっかりと見たい, 食生活を見たい, 生きた動物のことを深く見たい, 気付きたいということがあったと思う。改めて項目を挙げてはどうかと考える。
- ・大人も学びたいという意見もあった。
- ・95番は根源的な部分を指摘してくれている。これらは構想の柱3に当たるように思う。
- ・構想に生涯学習についての内容が抜けていたので入れたほうがよいように思った。

湯本座長

- ・動物園の手の届かないところは植物園や水族館と一緒にやるということが必要であり、それによって過剰な労力をかけてしまうことを避けることができるように思う。

藤井委員

- ・啓発, 魅力発信事業は充実しているが, 職員負担が気になる。外部の方と協力できているのであればよい。
- ・アンケート回答者の属性に偏りがあるように思った。視点が特定のであるので, 動物園利用者として, またアンケート対象として, 誰をターゲットとし, 何を参考とするか考慮する必要があると感じた。

岩田課長

- ・教育機関から意見を得るように市長から指示があったので保育連盟, PTA等にアプローチした。
- ・子供目線の意見が出ている。大人目線の意見が少ないというのは感じている。
- ・屋内会場であった左京区民ふれあいまつりでは地域の方々から多く回答を得た。
- ・動物園で活動していただいているボランティアの方々にも回答を得ている。

湯本座長

- ・属性分析が必要ではないかと思う。
- ・多面的な利用ということはあるのだが、どのような層がどのようなことを求めているのか、を深めて分析することが必要だと思う。

中道委員

- ・魅力発信を園外で行うことに対して現場がどのように感じているか、また、それによって何か発見があったかということを知りたい。振り返りが大切である。これは職員の自己啓発の意味もあるように思う。
- ・魅力発信は園外での活動も大切だが、動物園の内部での活動が最も重要だと思う。園内の活動内容も記載して欲しい。

片山園長

- ・同意する。職員も活動の大切さを感じている。園外で活動することで動物園の存在感や職員の達成感向上にも繋がっている。来年も続けたいという意見もある。また、現在も来園者の声と題してアンケートで得た意見を毎月まとめている。自由記述ではあるが幅広い意見をいただいている。それらの内容も本構想の付録とする等検討していきたい。

池田委員

- ・近年の本園の活動は積極的に行われているように感じている。よい意味で慎重ではなく、実践・挑戦的に取り組まれているように思う。公共施設では検討して多様な意見を受けて、結局何もやらないところが多い。数年は一定の無理が必要かと思うが、その後、継続的に行えるように体制を検討していってもらえればと思う。
- ・アンケートの自由意見の中で、101番「目玉になる動物がわからない」という意見がある。これまで冊子等で度々アピールしてきたがこういった意見が出るとなると、エントランスに目玉となる動物の顔を大型パネルで展示するしかないように感じてしまった。以前から、エントランスの部分に動物園の意義や主要な動物等に関する内容を掲示すべきだとは感じていた。
- ・107番の意見にあるように子供向けの新聞を発行できるとよい。

湯本座長

- ・子供向けの発行物は動物園内部だけでなく幼稚園保育園の関心のある人々を募って組織化するなどして作成していけるとよい。
- ・アンケートの属性分析により、主要な動物が何であるかがどのような人に伝わっていないかを分析できるとよい。

今村委員

- ・最近、来園者が増えているように思う。これは努力の結果だと思う。そんな中、全く興味が無い人々へいかに伝えるかを考えていければさらに広がるように思う。

澤邊委員

- ・地域の住民として、本園が対外的に発信していることは、近隣住民としてとても感じている。ラジオでの出演や新聞での記事、講演など、園外で様々なことができており、この会議の成果のように思う。全てやることは難しいので取捨選択してやれることからやっていった成果だと思う。
- ・ライオンについてはいなくなるのはやはり寂しい。しかし、できるできないことをはっきりし、目標を掲げ、進めていってもらえたらよいように思う。

本多委員

- ・アンケートからは動物園への期待が大きいように感じた。職員の方々の意欲が伝わっているように思う。

湯本座長

- ・それはスタッフ自身が楽しんで働いているディズニーランドが来場者にとって楽しい理由と共通するように思う。

福井委員

- ・イベント広報については大変頑張っているように感じている。職員の方々が明るいことは本園の財産だと思う。続けていければと思うが対価が必要だと思う。
- ・集客人数について、イベント後どのように変わったか等、数字で分かるとよい。
- ・サル島部分のリニューアルについてはパウチでもよいので来園者が分かるようにすることで、期待感を抱かせることができる。
- ・岡崎地域は文化的景観となっているのでそれを大切にしたい。植栽による日陰があった方がよいという意見もあるので、来園者が心地よいと感じながら、山並みや周辺景観と一体となった環境を形成できるとよい。植栽については弱い部分であるように感じている。

片山園長

- ・これまでの整備は既存の大木を維持しながら行った。疏水を含めた水と緑が豊かな地域として認められているので、それらを大切にしながら花や緑、美化に取り組んでいきたい。そういった内容も構想の本文に含めていけたらと思う。

湯本座長

- ・効果の把握のため、数値的な評価は大切であるが、統計的に雨や暑さ等の外的要因を考慮した評価できるとよい。

岩田課長

- ・毎日来園者数と天候については記録しているので、それらを活用して評価していきたい。気候によって来場者数は大きく変わる。

福井委員

- ・湿度も大きく影響を与えるので考慮していただけたらと思う。

湯本座長

- ・測候所のデータなどで不快指数についても公開されているので活用して欲しい。
- ・取組が過小評価されることのないようにして欲しい。

(2) コレクションプラン(案)について

資料2 説明

今村委員

- ・調整種のライオンについて飼育展示を中止するということだが、終生展示という意味か。

和田課長

- ・お客さんが見るに耐え得る限りは展示する予定。難しくなれば展示は終了する。ただし、飼育を中止をするわけではない。

福井委員

- ・ツシマヤマネコの IUCN における評価が LC（低懸念）とのことだが、合っているか。

和田課長

- ・大陸に住んでいるベンガルヤマネコと同種であるので、国際的には LC になるが、国内では絶滅危惧種となる。

福井委員

- ・ヒヨドリは希少ではないが、怪我をした保護鳥類（ヒヨドリ）を動物園内で間近に見られるようになればいいのではないか。

和田課長

- ・元々、救護、保護で展示が始まったものであるが、現在ヒヨドリは救護の対象外であり新たに展示個体を入手できる予定がないため、調整種となっている。園内に飛来する個体もあるのでそれらを説明するパネル等を設置できればと考えている。

福井委員

- ・ぜひパネルは設置して頂きたい。

(3)安全対策について

資料3 説明

湯本座長

- ・説明は平時の内容であるように思うが、災害時など、非常時の業務継続計画についてはどのように考えているか。

坂本副園長

- ・建物は地震時に倒壊するようなものとしていないので、倒壊による脱走は想定していない。動物園水族園協会の安全対策委員会の災害対策部では周辺の動物園水族館が支援をしている。先日の千葉の台風被害では電源車を他園から派遣する等の対応がされている。

中道委員

- ・マニュアルをつくっているとのことだが、職員の間での読み合わせなどはどの程度行なっているか。

坂本副園長

- ・毎年更新版をつくっている。係長に決裁をとって、フィードバックしているので、作りっぱなしにはしていない。

和田課長

- ・また、作業手順が変わった度に書き換えている。

中道委員

- ・文章化すると読まなくなるので読み合わせを定期的にとよい。
- ・ゴリラの展示等は国内的には先進的かもしれないが、国際的にはシルバーバック1頭に対して複数の雌を飼育することや、施設としても屋外、屋内両方に広い場所が確保される等の取組が行われている。現状がゴールではなく、まだまだ上のレベルを目指して行って欲しい。シルバーバックのブラキエーションが見られるのはすごいことだが、もっと高い目標を設定して欲しい。

松本委員

- ・J A Z Aで本園の取組が共有されているか。
- ・ハズバンダリートレーニング等により、動物と職員が触れる機会が増えている中、安全対策についてどのように考えているか。

片山園長

- ・本園の安全対策については誇りに思っているので、J A Z A加盟園へ発信を行っていきたいと思う。現時点でも坂本副園長がJ A Z A総会においても安全対策に関する講演を行ったりしている。

池田委員

- ・他園に行くと坂本副園長の安全対策の話が話題になっており、高評価である。大きな園では管理職と現場で隔絶がおこっていることが多いので本園の取組を伝えて欲しい。
- ・コレクションプランについて、フンボルトペンギンについて今後何か考えているか。放し飼いなどの事例もあるが。

和田課長

- ・フンボルトペンギンは日本が世界的に一大個体保有国になっている。個体を移動させ、繁殖をしたいが、ストップが掛かるという難しい面もある。そんな中、卵で移動させる等の取組も検討し、今後も維持していきたいと考えている。施設についても日陰がないなど課題もあるので引き続き検討していきたい。研究者とも情報交換を行っていきたい。

湯本座長

- ・フンボルトペンギンの施設面も今後検討していきたいということか。

和田課長

- ・そうである。来園者にも伝えていけたらと考えている。

福井委員

- ・動物園ごとに組織形態が違うので、京都市動物園の安全対策とともに組織形態も伝えてあげると分かりやすいと思う。
- ・ヒヤリハットについては目につきやすい事務所出入口のホワイトボードに記載して共有する方法などが有効であるように思う。

坂本副園長

- ・現在はヒヤリハット事例経験者がその日のうちに様式に記載し、係長へ提出、コメントをもらうということをしている。それを毎月まとめ、一覧表にして共有、年間では事例ごとにまとめ共有している。

福井委員

- ・回覧共有では少しタイムラグがあることが気になる。ホワイトボードなどを活用して簡単に素早く共有できると未然に防ぐことができる内容もあるように思う。

湯本座長

- ・ヒヤリハットの数を減らすことが大切である。

今村委員

- ・動物自体の事故に関してもなるべく減らす努力をできるとよい。

和田課長

- ・本園におけるグレイビーシマウマの事故は網目のフェンスであったため、透けているように認識されたことが原因であると判断している。今は板を貼って対応している。将来的には危険な鉄パイプにクッション材をつけ、目隠しを来園者に参加してもらって何かデザインしたものを取り付けられればと考えている。

澤邊委員

- ・最近のヒューマンエラーの事例を教えてください。

坂本副園長

- ・些細なものでは鍵の置き忘れ、消灯忘れ等がある。稀ではあるが扉に設置されている2箇所のかんぬきの内、1箇所が施錠されていなかった事例がある。猛獣類はダブルチェックを行っているのでチェックできるが、その他の部分ではそういった事例も起こっている。

本多委員

- ・全員に無線機を配られたのは大変よいことだと思う。平安神宮でも持っている。
- ・平安神宮では先日池の修復工事が終了し、琵琶湖博物館の学芸員の方に調査を行ってもらった。
- ・イチモンジタナゴを1つの池に100個体放流予定。数年掛かるかと思うが、元の姿に戻っていくと思っている。

(4)「新たな「京都市動物園構想」」策定に係る市民意見の募集について

資料 4 説明

中道委員

- ・柱 3, 4 行目「学ぶ機会を提供する」を「楽しく学ぶ機会を提供する」とした方がよいと思う。アメリカの動物園で権威のある雑誌 ZooBiology に本園の飼育担当の方が第一著者となって論文が掲載されている。こういったことはアメリカでも少ない。実施することは動物園の大切な役割の一つだと思うので

北村政策監

- ・コレクションプランについて、今後どういったものを新たに展示していくということは示さないものなのか。

湯本座長

- ・近年、新しい展示種を導入するということはあまりない。切実な事情がないと新たに導入することは近年難しい。展示の中に国内種 2 種が含まれているということは特筆すべきことである。

池田委員

- ・新たなものを入れることは時流に反しているように思う。長期的にツシマヤマネコ等の飼育ノウハウをいかして他種を入れるという考え方はあるかと思う。

藤井委員

- ・一般意見のライオン、コアラを見たいというような意見といかに共存していくかが大切である。大阪ではコアラの展示中止について金銭的理由を用いて説明していて、理解が得やすかったように見えた。本園におけるライオンについて、ネットで現況が日々発信されているのはよい取り組みだ。見るだけで実際に来園者していない人もいるが、それもファンの形。無理に来園を誘導する必要はないので来られない人にもわかる内容があることはよいと思う。
- ・アンケートについては無料入園者が対象となっているように感じた。結果は教育的効果を評価するものなのかと思う。重要な意見である一方、一般的ではないことには留意が必要。

松本委員

- ・市民の方に本園が何をしようとしているかを伝えたいとすることでコレクションプランを示していくことが大切であるように思う。その信頼関係を作ることが大切。
- ・イベントなどへのブース出店を多くしているとのことなので、対話・インタビューも上手に利用して調査を行っていったらよいように思う。

福井委員

- ・資料は概要版とのことだが、ボリュームが多いように思った。様々な媒体を駆使して広報していった方がよいように思う。
- ・ですます調と言い切り調が混在しているので、ですます調で統一した方がよいと思う。
- ・今後どれほどアンケートを取る予定か。

片山園長

- ・今後 3 回ブースを出す予定。追加で 150 ～ 200 程度回答を得られるのではと考えている。配布アンケートと直接対話アンケートの両方を行っている。

福井委員

- ・配布と直接対話型アンケートも分けて分析した方がよいように思う。

湯本座長

- ・以上で討議を終わりたい。

岩田課長

- ・ありがとうございました。10 月下旬にパブリックコメント、1 月に第 6 回検討会議を実施し、本構

想を策定していきたいと考えている。

北村政策監

- ・30年度決算では基金を使い黒字化したという厳しい状況である。サルワールド再整備についても大きなミッションであるように思う。委員の方々には引き続きよろしくお願いしたい。

岩田課長

- ・これにて第五回検討会議を終わりたいと思います。

- 閉会 -